

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成25年9月26日(2013.9.26)

【公開番号】特開2013-28073(P2013-28073A)

【公開日】平成25年2月7日(2013.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-007

【出願番号】特願2011-165674(P2011-165674)

【国際特許分類】

B 4 1 J 3/50 (2006.01)

G 0 7 D 9/00 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 3/516

G 0 7 D 9/00 4 3 6 A

G 0 7 D 9/00 4 5 6 F

【手続補正書】

【提出日】平成25年8月9日(2013.8.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

図1に示す印字装置1は、印字ヘッド2と、ギャップガイド3と、キャリッジ4と、ギャップ調整機構5(図2参照)と、ヘッド移動部6と、プラテン7と、付勢機構8と、付勢力調整機構9と、フレーム10と、を備えている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 5】

モータ32は、例えばステッピングモータから成り、小径ギア33を正逆両方向に回転駆動する。これにより、大径ギア34が正逆両方向に回転し、カム31は、サイドフレーム16bのスタッド27を支点にして正逆両方向に回動する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 8】

これにより、プラテン7には、第1のスプリング21による付勢力のみならず、第2のスプリング22による付勢力が加えられる。このように、付勢力調整機構9は、少なくとも1つの弾性部材として第2のスプリング22を、プラテン7を付勢する位置と、そこから退避した位置(第3のリンク19がストップ17aによりロックされた位置)とに移動させる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 1】

このように、本例における付勢力調整機構9は、複数のスプリングのうち、少なくとも1つのスプリングとして第2のスプリング22を、プラテン7を付勢する位置と、そこから退避した位置（第3のリンク19がストップ17aによりロックされた位置）とに移動させる。このように、必要に応じてプラテン7を付勢するスプリングの数を変化させて、印字媒体11に対し付勢力を大きく変化させることができる。